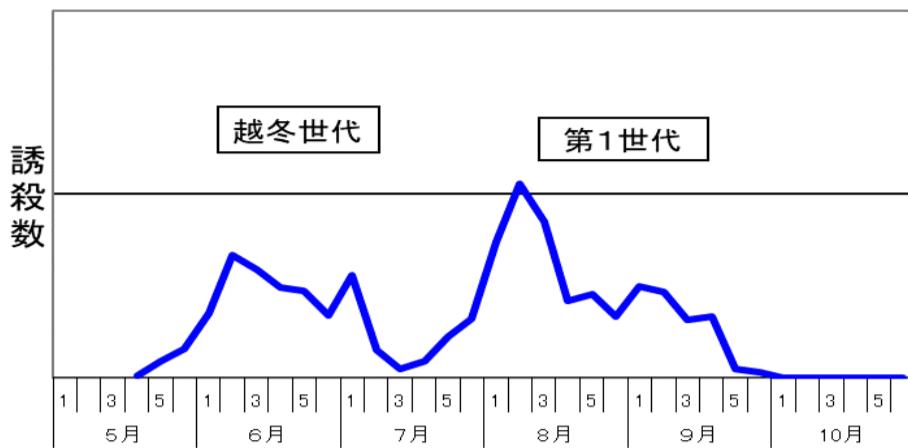


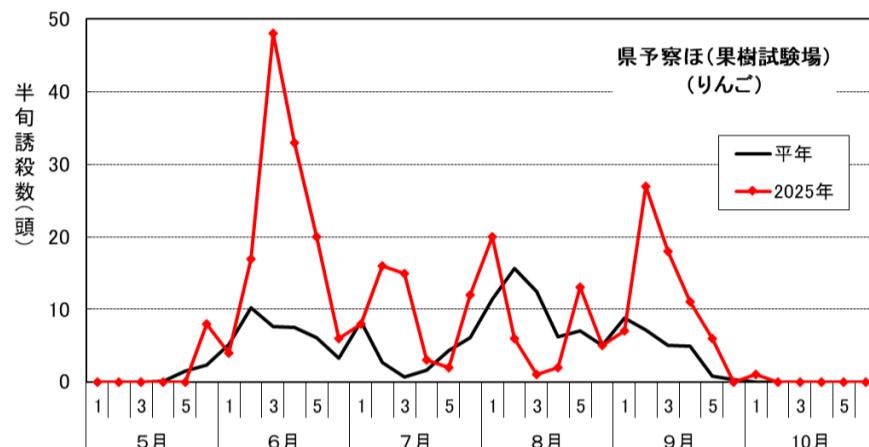
モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



○県予察ほ（須坂市 長野県果樹試験場）



【発生生態と防除のポイント】

- 標高600m以下の平地では年2回が大半である。
- 準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- 越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半は「がくあ部」に産みつけられる。
- 第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- 防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

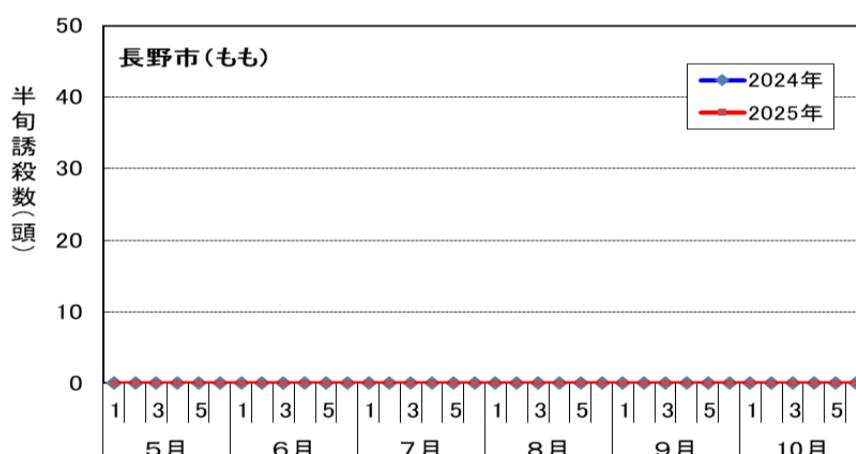
【調査地点】（標高約350m）

- 須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- 平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- 平年は越冬世代と第1世代はそれぞれ、発生期間の長い大きな山となるが、本年は誘殺の増減がはっきりし、各世代の中でもピークが複数に分かれた。
- 越冬世代成虫の6月のピーク時の誘殺頭数は平年の約5倍であった。年間誘殺頭数も本年は平年の約2倍であった。

○長野市・須坂市病害虫防除部



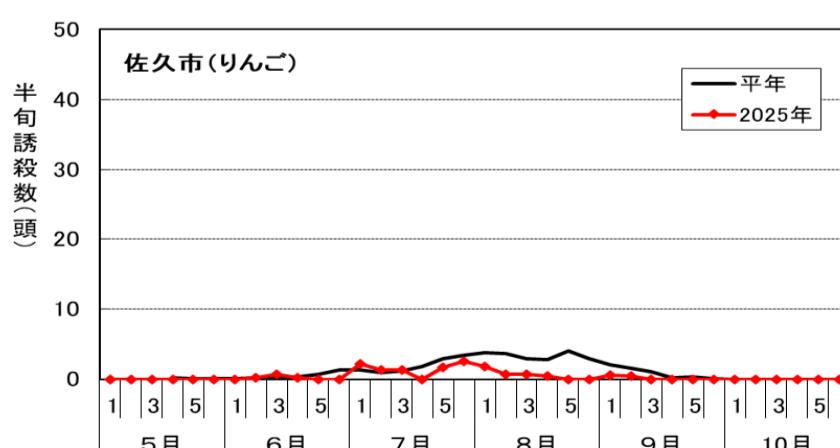
【調査地点】（標高約370m）

- 長野市（ももほ場）
- 2024年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- 本地点は、例年誘殺頭数が極めて少ないが、本年も年間を通して誘殺が記録されなかった。

○佐久市（佐久農業農村支援センター調査協力）

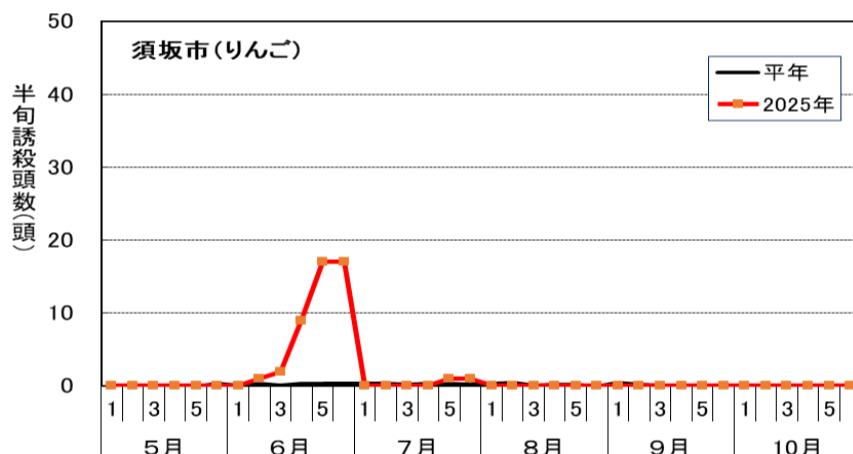


【調査地点】（標高約680m）

- 佐久市（りんごほ場）
- 平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- 例年、越冬世代と第1世代の発生の区別があまりはっきりしないが、本年も7月の頭と末に小さな誘殺の山がみられた。年間誘殺頭数は平年より少なかった。



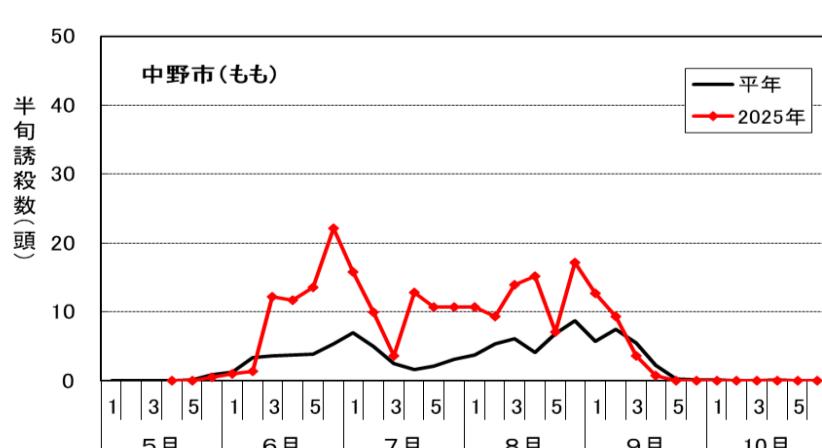
【調査地点】（標高約370m）

- 須坂市（りんごほ場）
- 2023年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- 例年誘殺が非常に少ない地点であるが、本年は越冬世代成虫が平年の20倍近く誘殺された。しかし第1世代成虫はほとんど誘殺されなかった。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約370m）

- 中野市（ももほ場）
- 平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- 例年の誘殺は7月頭がピークの越冬世代と8月末の第1世代のピークがそれぞれなだらかな山であるが、本年はピーク時の誘殺頭数が多く増減の幅が大きかった。年間誘殺頭数も、本年は平年の2倍強であった。